

《履修上の留意事項》本演習を履修するためには、2年次開講科目である心理的アセスメントの単位を修得していることを要する。また、本演習の単位を修得していないものは4年次開講の心理実習を履修することができない。  
公認心理師国家試験を受験するためにはこの単位は必須科目である。  
履修希望者が30名を超えた場合は、一部の演習を6講目以降に開講することがある。  
面接授業にて実施

《担当者名》○中野 倫仁 富家 直明 野田 昌道 森 伸幸 金澤 潤一郎 河合 祐子 本谷 亮 今井 常晶 安部 博史  
百々 尚美 橋本 竜作

### 【概要】

公認心理師に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得  
 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等  
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  
 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ  
 (エ) 多職種連携及び地域連携  
 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

### 【学習目標】

公認心理師に必要な知識および技能を修得する。  
 支援を要するものを理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成できる。  
 支援を要する者へのチームアプローチを学ぶ。  
 多職種連携と地域連携を学ぶ。  
 公認心理師の職業倫理と法的義務を学ぶ。

### 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1・2	記憶検査	リバーミード行動記憶検査とウエクスラー記憶検査改訂版を学生相互で実施し、レポートを作成する。	中野 倫仁
3・4	コミュニティアプローチ	多職種連携地域連携について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明
5・6	ノンバーバル・コミュニケーション	ノンバーバル・コミュニケーションについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	河合 祐子
7・8	MMPI	MMPIの受検者体験を通して、実施法、整理法、解釈法を習得し、解釈レポート作成を学ぶ。	野田 昌道
9・10	WISC-IV	WISC-IVについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	金澤 潤一郎
11・12	WAIS-IV	WAIS-IVについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	森 伸幸
13・14	乳幼児の個別支援計画	ニーズの把握と個別支援計画の作成について、事例検討を通して理解する。	今井 常晶
15・16	インテーク面接	インテーク面接について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	本谷 亮
17・18	心理検査	遂行機能検査(BADS)とKohs立方体検査を学生相互で実施し、レポートを作成する。	中野 倫仁
19・20	職業倫理	職業倫理的義務について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明
21・22	カウンセリングの基本的態度	カウンセリングの基本的態度について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	河合 祐子
23・24	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストのコーディングについて学び、教材事例についてコーディングを完成させる。	野田 昌道
25・26	WISC-IV	WISC-IVについて、学生相互で実施し、レポートを作	金澤 潤一郎

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		成する。	
27・28	WAIS-IV	WAIS-IVについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	森 伸幸
29・30	乳幼児コミュニケーション技術	乳幼児とのコミュニケーション技術について、ロールプレイを通して体験的に理解する。	今井 常晶
31・32	リラクゼーション法	リラクゼーション法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	本谷 亮
33・34	回想法	回想法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	中野 倫仁
35・36	公認心理師試験関連法案	公認心理師試験関連法案について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	冨家 直明
37・38	カウンセリング技法	カウンセリング技法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	河合 祐子
39・40	ロールシャッハ・テスト	教材事例を用い、構造一覧表を作成する。	野田 昌道
41・42	発達障がい支援	発達障がい支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	金澤 潤一郎
43・44	WAIS - IV	WAIS-IVについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	森 伸幸
45・46	心理検査	新版K式発達検査と田中ビネーVIについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	今井 常晶
47・48	認知行動療法	SSTと認知再構成法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	本谷 亮
49	地域サービス事例検討	地域サービスについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	中野 倫仁
50	カウンセリング技法	カウンセリング技法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	河合 祐子
51	Y-BOCS	Y-BOCSについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	森 伸幸
52	コミュニティアプローチ	チームアプローチについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	冨家 直明
53	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストを学生相互で実施し、プロトコルを作成する。それをもとに、自分のデータについて、構造一覧表を作成する。	野田 昌道
54	発達障がい支援	発達障がい支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	金澤 潤一郎
55	乳幼児の個別支援事例検討	乳幼児に対する個別支援の実際について、事例検討を行う。	今井 常晶
56	認知行動療法	エクスポージャー法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	本谷 亮
57～60	客観的臨床能力試験（OSCE）	講義内試験であるOSCEを行って、演習を通して獲得した臨床能力を評価する。	全教員

#### 【評価方法】

各講義内の発表、小テスト、レポートを60点、OSCEを40点、計100点で評価して、60点以上を合格とする。レポートは期日厳守とし、期限に遅れた分は0点と評価する。  
 新型コロナのため、OSCE実施が困難となった場合には、臨床症例問題による客観試験（40点）を行う場合がある。

#### 【備考】

参考書：1)写真でみせる回想法 弘文堂 2004年

その他：演習は15名以内を1グループとし、ローテートして行うため、講義内容の順序はグループによって異なる。OSCEは演習内容の総括として行われるため、履修者は原則、全講義に出席すること。

**【学習の準備】**

各演習の事前配布資料、マニュアル等を熟読し、理解すること(80分)。  
講義内容を復習し、該当文献を収取した上で、レポートを作成する(80分)。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

この演習は、社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得するために行われる。

**【実務経験】**

公認心理師：中野 倫仁、冨家 直明、野田 昌道、森 伸幸、金澤 潤一郎、河合 祐子、本谷 亮、今井 常晶、安部 博史、百々 尚美、橋本 竜作

**【実務経験を活かした教育内容】**

心理臨床家としての経験を生かした事例を作成し、臨場感ある検討を行う。